

豊橋市 男女共同参画及び性の多様性の尊重 に関する市民意識調査 調査結果報告書 概要版

《調査の概要》

豊橋市では、全ての人が人として尊重され、それぞれの個性と能力を十分に発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現をめざし、様々な施策を推進しています。この概要版では、男女共同参画及び性の多様性を尊重する社会づくりに関する市民の意識を把握するために実施したアンケート調査の主な結果について紹介します。

- 調査目的:本調査は、社会情勢の変化に対応した効果的な施策を展開するため、市民の男女共同参画及び性の多様性の尊重に関する意識やニーズを把握する目的で実施しました。
- 調査対象:豊橋市在住の16歳以上の男女
- 調査人数:男女各2,000人 合計4,000人
- 有効回収:1,028通(25.7%)
- 抽出方法:無作為抽出
- 調査時期:令和7年8月

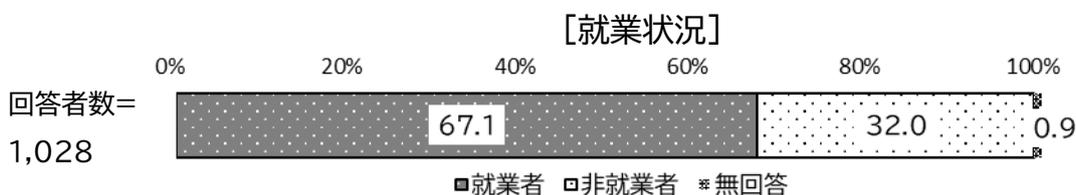
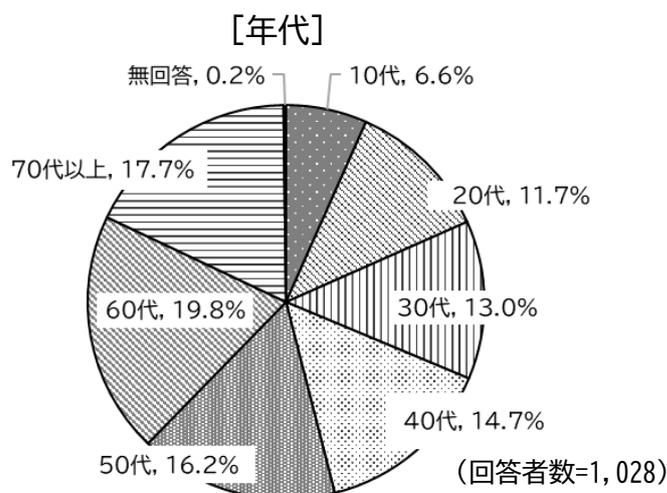
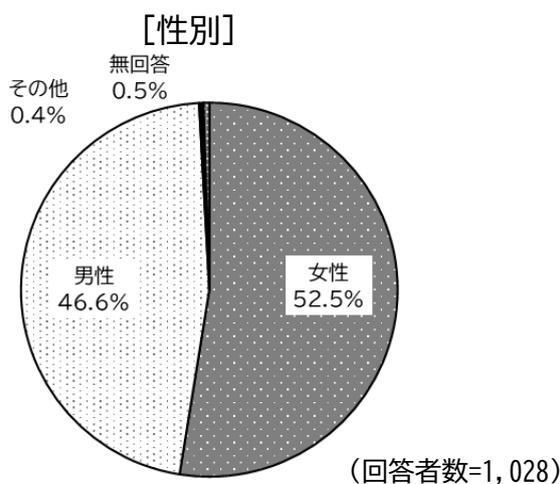


豊橋市 市民協働推進課

TEL:0532-51-2188

令和8年3月発行

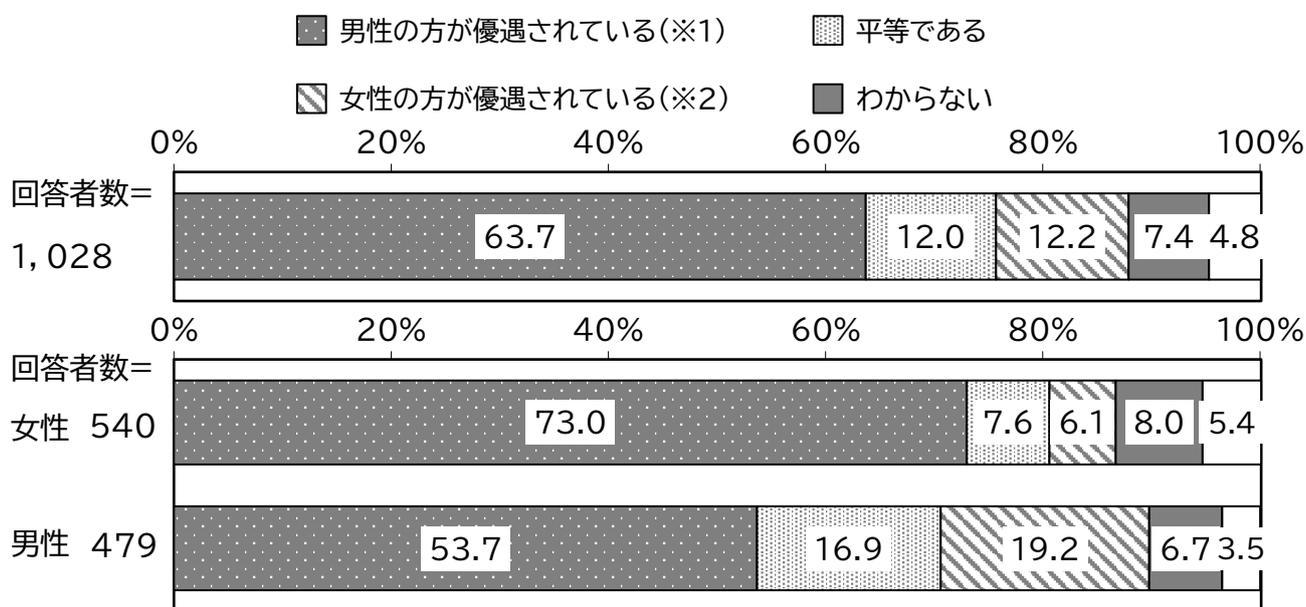
●回答者の属性



1. 男女の平等感について (報告書 P14~P32)

- ① 社会全体でみた男女の地位の平等感についてたずねたところ、63.7%の人が「男性の方が優遇されている(※1)」と答えています。男女別でみると、「男性の方が優遇されている(※1)」の回答の割合は男性よりも女性で高くなっており、男女間で認識に差があることがわかります。

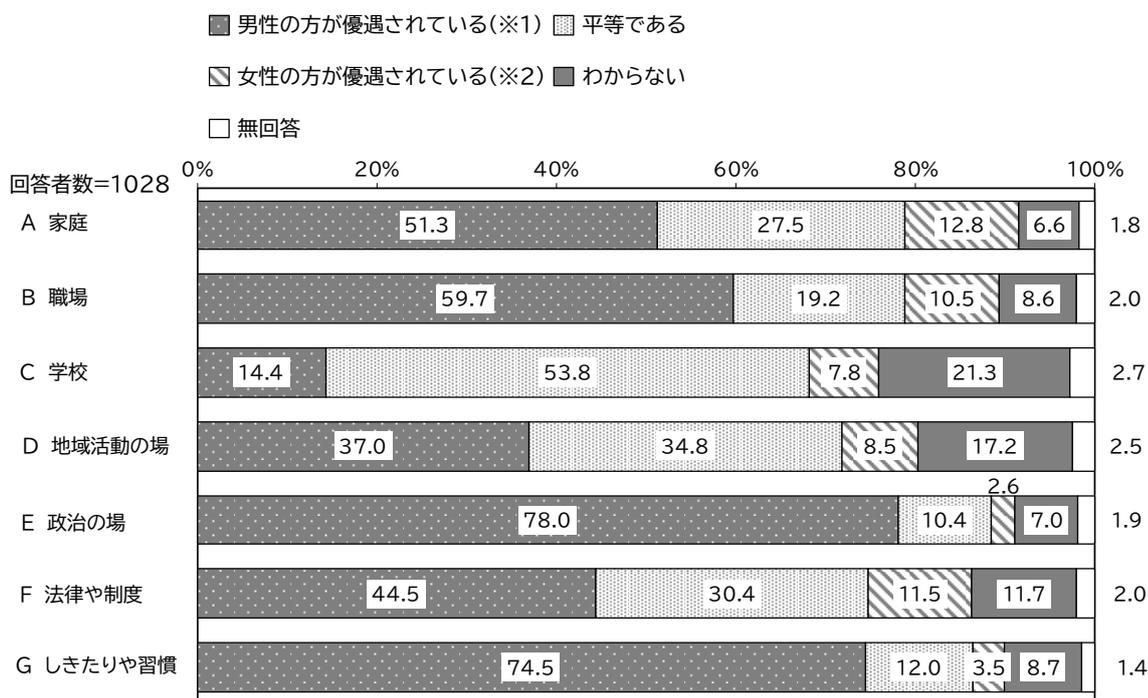
[社会全体の男女の地位評価]



※1:「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計
 ※2:「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

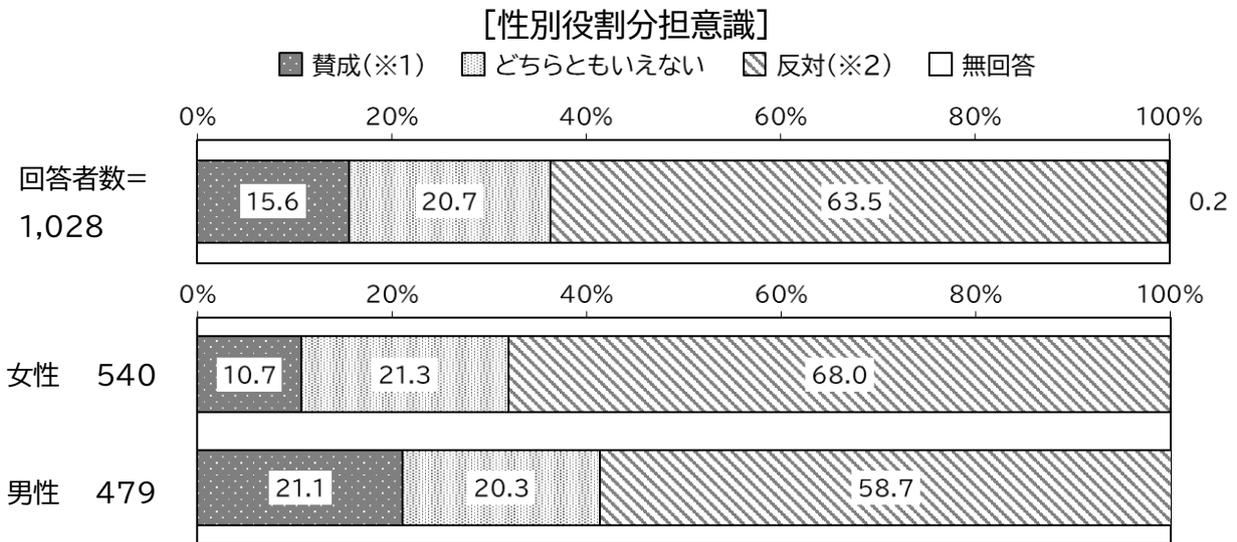
- ② 場面別にみると、平等感がもっとも高いのは「学校」で「平等である」の回答が半数を超えています。一方、「政治の場」「しきたりや習慣」は「男性が優遇されている」の回答が70%を超えています。

[各場面および分野の男女の地位評価]



2. 性別役割分担意識について **(報告書 P50~P57)**

- ① 「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「反対する」の回答が63%を超えています。
 また男女別で見ると、女性に比べ、男性で「賛成する」の回答の割合が高くなっています。

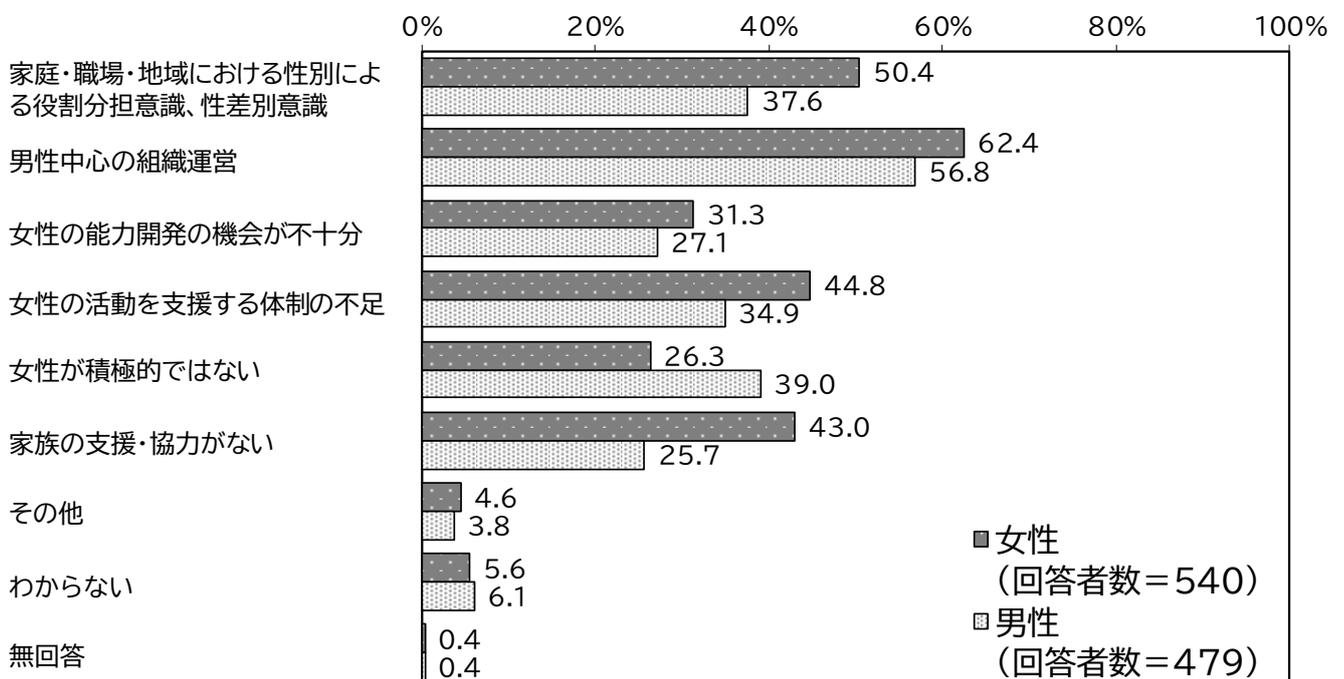


※1：「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」の計
 ※2：「どちらかといえば反対する」と「反対する」の計

3. 意思決定の場への女性の参画について **(報告書 P34~P36)**

- ① 政策や方針決定の場への女性の参画状況が男性よりも低い理由として「男性中心の組織運営」の回答の割合が最も高く、その他に「家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識」、「女性の活動を支援する体制の不足」の回答の割合が高くなっています。

[政策などの決定の場への女性の参画状況が低い理由 (性別別)]



4. 家庭・仕事・地域活動のバランスについて (報告書 P37~P49)

- ① 平日・休日ともに「家事（掃除・洗濯・炊事など）」「子育て（乳幼児から学生まで）」「介護・看護」といった家庭の活動の時間は女性が男性より2倍以上長くなっています。

[平日・休日の活動時間]

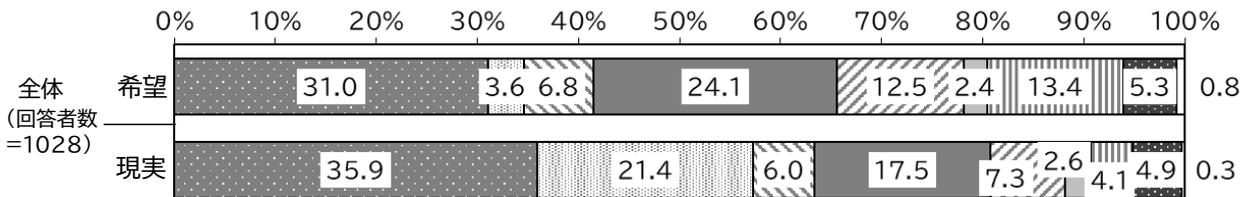
単位:時間

	平日			休日		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
A 仕事(収入の得られる労働)	5.43	4.54	6.41	1.07	1.16	0.96
B 家事(掃除・洗濯・炊事など)	2.43	3.57	1.17	2.90	4.07	1.61
C 子育て(乳幼児から学生まで)	1.31	2.03	0.51	1.97	2.71	1.12
D 介護・看護	0.39	0.52	0.24	0.41	0.54	0.26
E ボランティア・NPO活動	0.08	0.10	0.06	0.11	0.08	0.12
F 地域活動(自治会の530運動・資源回収など)	0.11	0.06	0.15	0.22	0.21	0.24
G 趣味・レジャーなどの余暇活動	1.50	1.43	1.56	3.42	3.17	3.67

- ② 「家庭」、「仕事」、「地域活動」の希望と現実について比較すると、全体では、「仕事」を優先」の回答の割合が希望の3.6%に対し、現実には21.4%と希望と現実の差が大きく、「仕事」を優先していることが分かります。

[家庭・仕事・地域・個人の活動の優先度（理想と現実比較）]

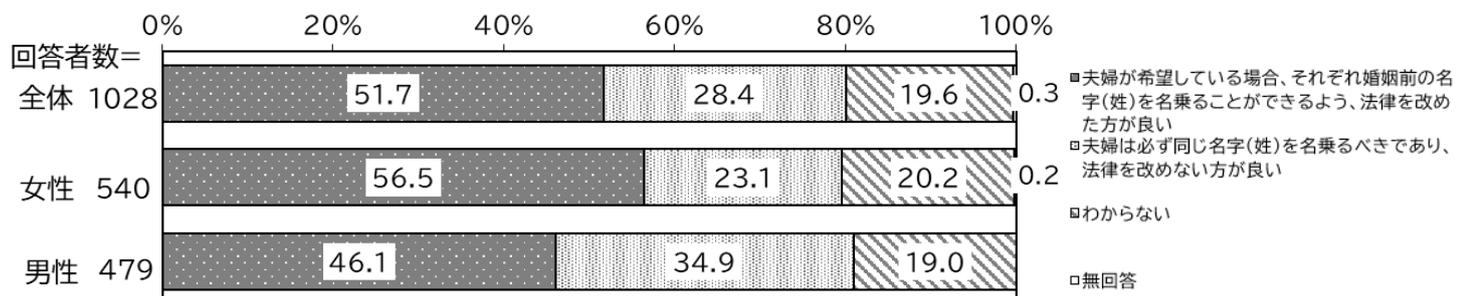
- 「家庭」を優先したい・している
- 「仕事」を優先したい・している
- 「地域・個人の活動」を優先したい・している
- 「家庭」と「仕事」をともに優先したい・している
- 「家庭」と「地域・個人の活動」をともに優先したい・している
- 「仕事」と「地域・個人の活動」をともに優先したい・している
- 「家庭」と「仕事」と「地域・個人の活動」をともに優先したい・している
- わからない



5. 選択的夫婦別姓について (報告書 P82~P84)

- ① 「夫婦が希望している場合、それぞれ婚姻前の名字（姓）を名乗ることができるよう、法律を改めた方が良い」の回答が約半数を占めていますが、男女の差が大きくなっています。

[選択的夫婦別姓について]

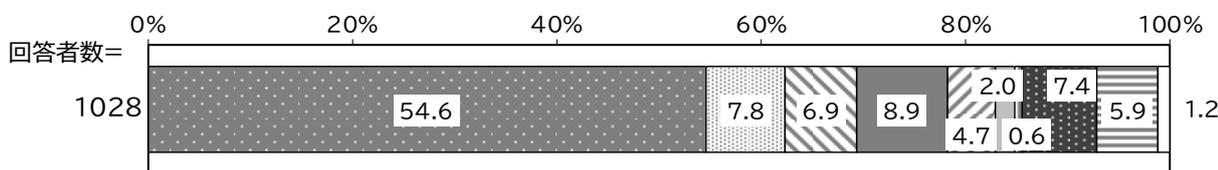


6. 女性が仕事をするることについて (報告書 P71~P73)

女性が仕事をするることについてどのように思うかをたずねたところ、「子どもができれば産休・育休・時短勤務などを利用して、仕事をずっと続けるのがよい」の回答の割合が高くなっています。

【女性が仕事をするることについて】

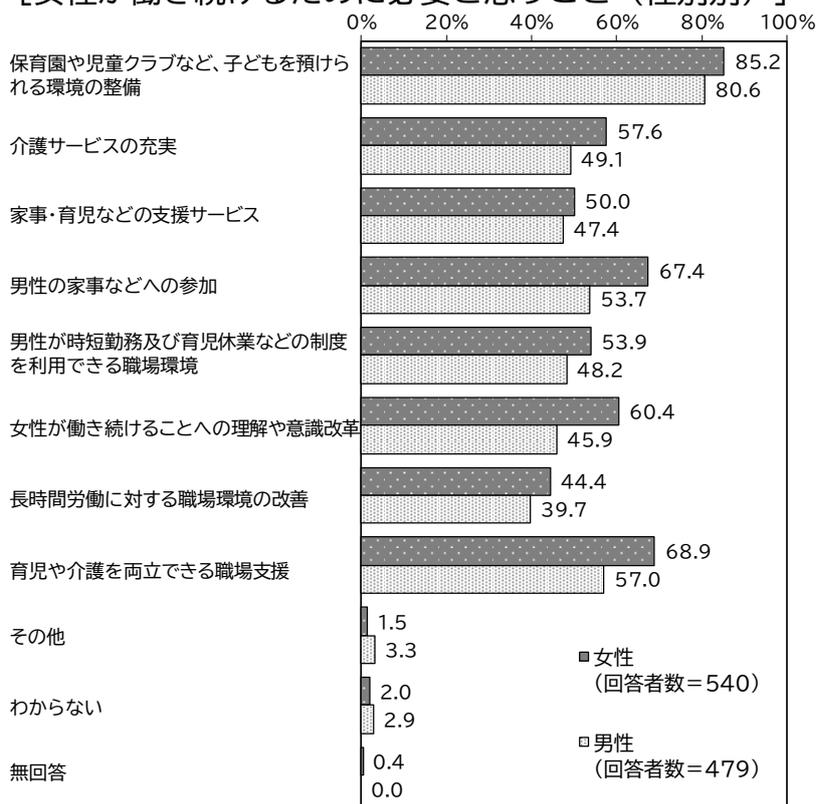
- 子どもができれば産休・育休・時短勤務などを利用して、仕事をずっと続けるのがよい
- ▨ 子育てを機に退職し、子どもが成長したらフルタイムの仕事に就くのがよい
- ▧ 子育てを機に退職し、子どもが成長したらパートタイム(社会保険料等の扶養の範囲を超える)で仕事に就くのがよい
- 子育てを機に退職し、子どもが成長したらパートタイム(社会保険料等の扶養の範囲内)で仕事に就くのがよい
- ▩ 子どもができるまでは仕事をするのがよい
- ▨ 結婚するまでは仕事をするのがよい
- ▩ 女性は仕事をしない方がよい
- その他
- ▨ わからない
- 無回答



7. 女性が働き続けるために必要と思うこと (報告書 P74~P76)

働くことを希望する女性が働き続けるために必要だと思うことについてたずねたところ、「男性の家事などへの参加」、「女性が働き続けることへの理解や意識改革」、「育児や介護を両立できる職場支援」といった男性側・職場に求められる項目で男女の差が大きくなっています。

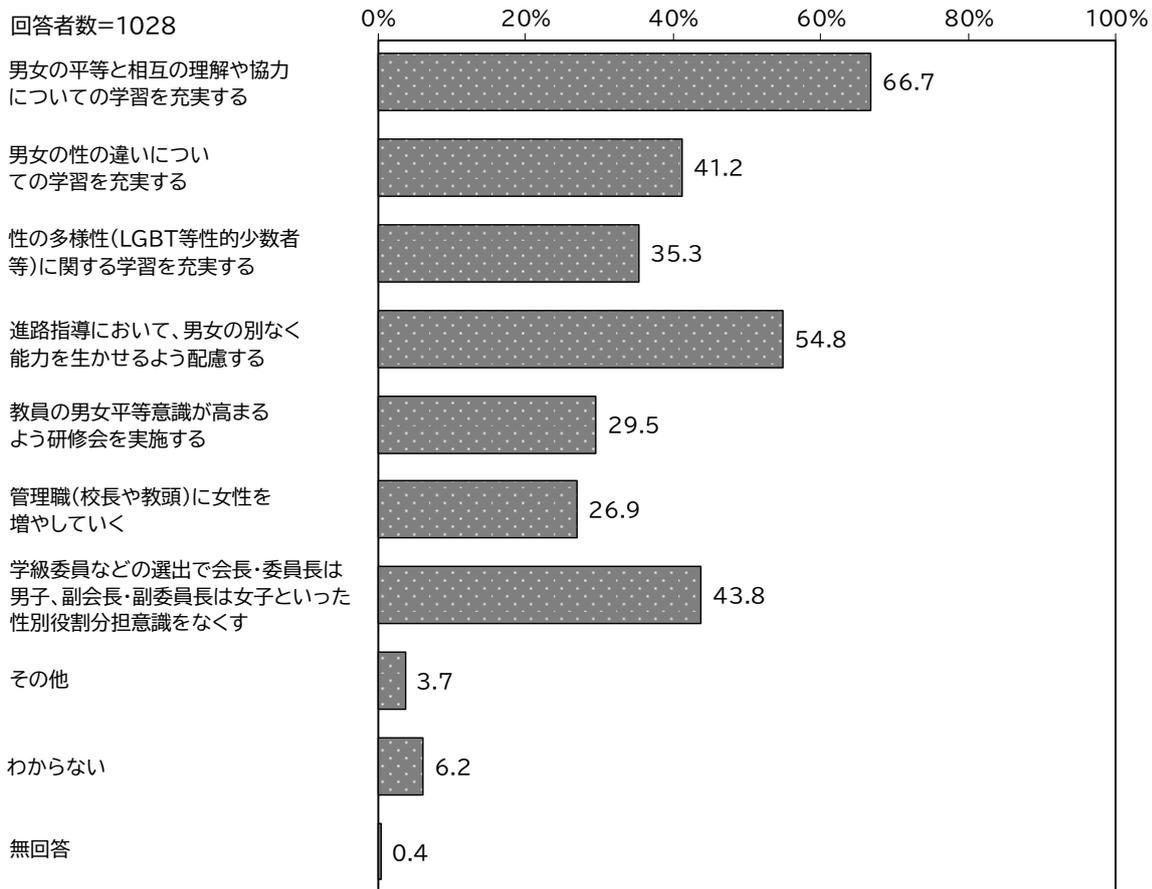
【女性が働き続けるために必要と思うこと(性別別)】



8. 男女平等のための学校教育のあり方 (報告書 P95~P99)

- ① 男女共同参画社会実現のために、学校教育の場で必要なことについてたずねたところ、「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の回答の割合が 66.7%と最も高く、次いで「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が 54.8%、「学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす」の回答の割合が 43.8%となっています。

[男女平等のための学校教育のあり方]



- ② 男女別で比較すると、男性に比べ、女性で「管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく」「学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす」「LGBT等性的少数者（性の多様性）に関する学習を充実する」の割合が高くなっています。

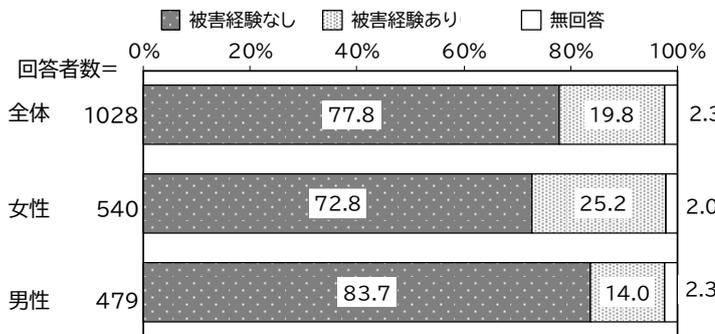
[男女平等のための学校教育のあり方（性別別）]

区分	回答者数(件)	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	男女の性の違いについての学習を充実する	LGBT等性的少数者(性の多様性)に関する学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
女性	540	66.7	43.1	38.9	55.4	30.0	31.3	47.6	2.4	6.5	0.4
男性	479	67.4	39.2	31.3	54.1	28.4	22.5	39.5	5.2	5.4	0.2

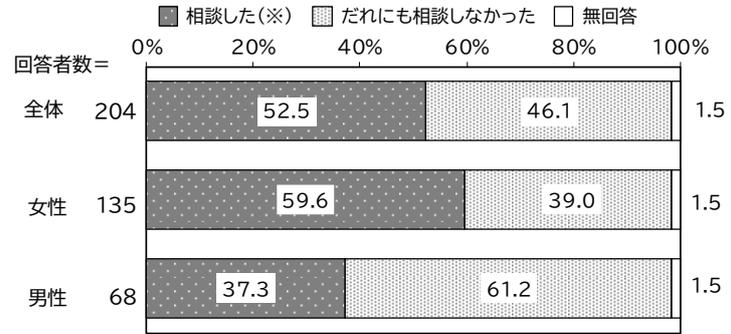
9. 配偶者等からの暴力 (DV) について (報告書 P104~P126)

- ① 配偶者や交際相手から受けた暴力行為 (DV) の経験についてたずねたところ、女性の4人に1人が被害の経験があると回答しています。
- ② DV の被害経験がある方のうち、女性の 39.0%、男性の 61.2%が「だれにも相談しなかった」と回答しています。

[DV 被害経験の有無]



[DV 被害の相談]



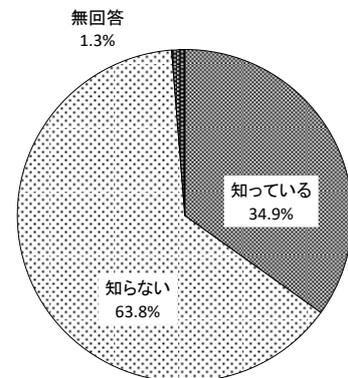
- ③ DV の被害の内容は「大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれたりした」が最も多く、次に「髪をひっぱる、物をなげつける、はたくななどの暴力を受けた」「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われた」と回答しています。(※)

- ④ DV相談 (電話相談・面接相談) 窓口があることの認知度は 34.9%にとどまっています。

[DV 被害の内容]



[DV 相談窓口の認知度]



(回答者数=1,028)

- 命の危険を感じるくらいの暴力を受けた
- 医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた
- 髪をひっぱる、物をなげつける、はたくななどの暴力を受けた
- いやがっているのに性的な行為を強要された
- 避妊をしない性行為を強要された
- 見たくないのに、ポルノ(アダルト)ビデオや雑誌を見せられた
- 何を言っても無視され続けた
- 交友関係や電話、メール、SNSを細かく監視された
- 「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われた
- 大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれたりした
- 生活費を渡さないなど、経済的に抑えつけられた
- その他

※全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合

■ 豊橋市 DV 相談とは

豊橋市では、DV 被害者にとって身近で安心して相談できる窓口として、女性相談員による相談窓口を開設しています。

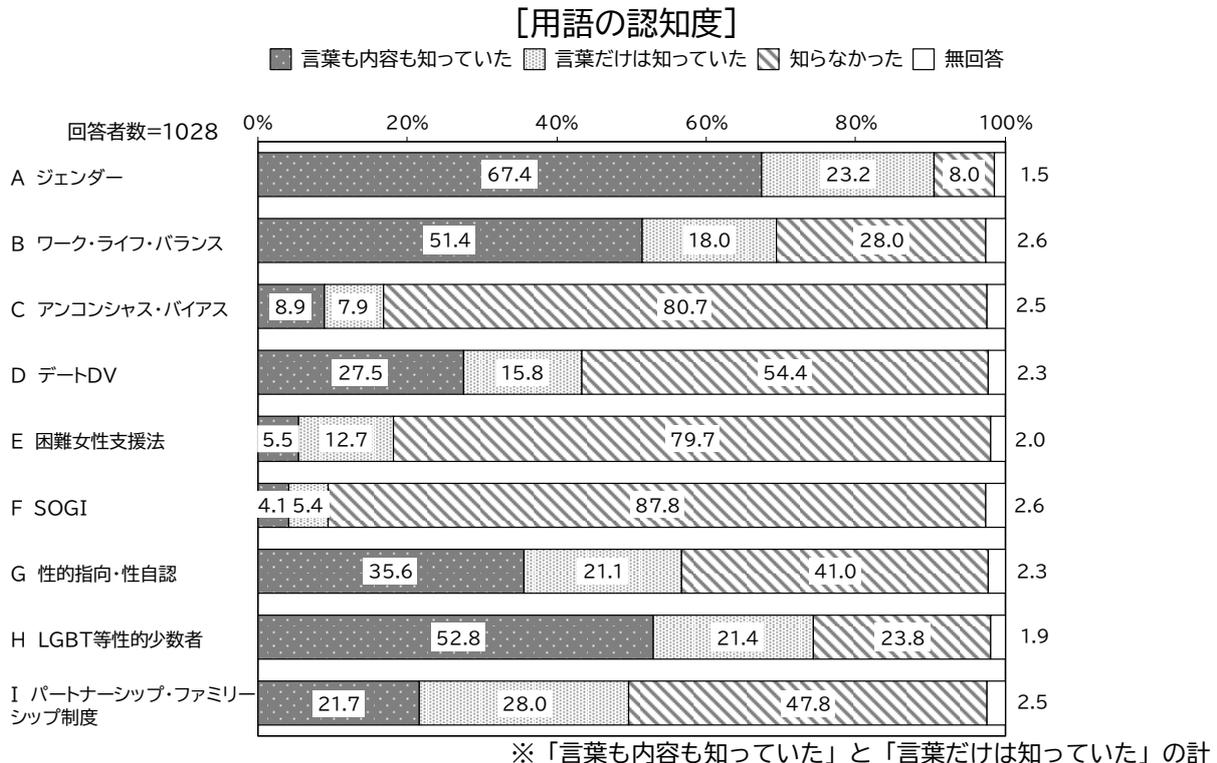
☎ 0532-33-9980

- ・DV 電話相談 月～金曜日(9時～15時)
- ・DV 面接相談 火・水・木 (要予約)

※身体への暴力だけでなく、言葉や態度による心への暴力も DV です

10. 男女共同参画及び性の多様性を尊重する社会づくりに関する用語の認知度について

- ① 『ジェンダー』、『LGBT等性的少数者』については「知っていた(※)」の回答が7割を超えています。一方、『アンコンシャス・バイアス』『困難女性支援法』『SOGI』については「知らなかった」の回答が8割前後で認知度が低い状況です。



調査結果からわかる豊橋市の現状

- 男女の平等感では、「男性のほうが優遇されている」の回答が6割強を占め、依然として男性が優遇されていると感じている市民が多いことがうかがえます。場面別では、「学校」で「平等」との回答が5割強である一方、「政治」「しきたりや慣習」「職場」での「平等」との回答は2割未満で、男女の平等感は場面ごとの差が大きい状況です。
- 「男は仕事、女は家庭」といった性別役割分担意識の考え方について6割以上が「反対する」と回答しており、その割合は年々上昇しています。一方で男性の2割は「賛成する」と回答しており、その割合は女性よりも高くなっています。政策や方針決定の場への女性の参画状況が低い理由としても「性別役割分担意識」の回答の割合は4割を超えています。
- 家事や子育て、介護・看護について女性は男性より2倍以上の時間を費やしており、依然として女性の家事等の負担が大きい状況です。
- 女性が働くことについて産休や育休を使いながら就労を継続する考えの割合が最も高く、そのために必要なこととして子どもを預けられる環境の整備、育児や介護を両立できる職場支援など、働くための環境整備が求められています。
- 女性の4人に一人がDVの被害経験があります。また男性にも一定数被害があることがわかります。しかし、5割の人が被害を受けた際に相談をしておらず、6割の人がDV相談窓口の存在を知らない状況であり、DV相談窓口のさらなる周知が必要です。
- 男女共同参画や性の多様性の用語の認知度は長期的に見て上昇傾向にありますが、「アンコンシャス・バイアス」や「SOGI」の認知度は2割以下であり、さらなる啓発が必要です。